

## 就職状況

今年度は、求人数・求職者数ともに増加しました。特に、求人数は昨年度26%増しの1,239名(1月末現在)あり、求人難を反映した結果となりました。特徴として、増加した主な職種としては建設・採掘190%、生産工程職159%、専門的・技術的職149%、運搬・清掃・包装等131%、事務職125%でした。また、業界としては製造業、情報通信業、運輸業、宿泊・飲食サービス業などの増加が目立ちました。

求人内容としては、一定のレベルに達した大卒者が採用できないので、高卒採用に切り替えるという企業が多数ありました。純真で無垢な高校生を一から育て、将来の企業成長につなげていきたいそうです。多くの場面で商業高校生の実力が高く評価され、即戦力に近い形での活躍が期待されている証です。今後も、この傾向は続くと考えています。

業界や企業の動きを知ることは働き甲斐のある職場を見つけるための必須条件です。ですが、高校生向けに発信されている企業情報は極端に少ないのが現状です。このような状況を少しでも打開できるように、引き続き外部行事として参加する「夢のマッチングフェア」での情報活用を促したり、今年度から校内行事として始める「卒業生による企業説明会」で得られる情報を活用したりして、自らの進路選択の一助とさせていけるような指導体制を整えています。

## 進学状況

### 1 大学・短大の進学状況

本年度も進学者の学部は、経済、経営、商学部だけでなく、家政、語学、保育、スポーツ健康、管理栄養、その他と広範囲にわたっています。

昨今、社会の動きも目まぐるしく変化しており、グローバルな社会へ適応していくためには、外に目を向けて自ら環境を変え、向上していこうという気持ちを持たなければ、社会から取り残されてしまいます。愛知県は、県内への進学率が他県に比べて高くなっています。しかし、本校では一般受験ではなかなか合格できない県外の大学から指定校推薦をいただいています。今年度の指定校推薦の枠は、大学75校 約394名、短大26校 97名でした。

一般公募制推薦の合格者は、専門高校枠や簿記会計推薦など、商業に関わる推薦での合格をしています。それに加え、今年度は、指定校推薦の枠がないが、自分が本当に学びたい学部(社会学部、現代中国学部、健康栄養学部及び文学部)のある大学の一般公募制推薦入試にも合格しました。

### 2 専門学校への進学状況

本年度の専門学校進学者は30名程度と、昨年と比べ、半減しています。進学先が、医療系、ビジネス系、デザイン系、美容、調理、製菓、保育、ホテル・ブライダル、福祉、看護など多岐にわたるといふ点では、例年と同じ傾向ですが、税理士コース志望の生徒が、会計事務所等への就職をめざし、進学者が減少しました。

今年度も昨年に引き続き、いくつかの学校で募集停止となる学科がでてきました。18歳人口が減少するにつれ、十分に生徒を集めることが難しい学科や学校が今後増えることが予想されるのは、専門学校だけの話ではありません。アンテナを高くし、希望する学校については、さまざまな情報を集めるよう指導しています。

### 3 看護系学校への進学状況

看護系への希望者は毎年5名前後います。東海三県の四年制大学に看護学科が新設され、ここ数年、本校でも看護大学入学者も出始めましたが、主は看護専門学校(3年全日制)です。

看護大学では、公募制推薦で専願・併願があります。併願を利用すれば、二校受験することが可能です。専門学校の推薦入試は専願制です。ともに倍率は2倍を超えます。また、1校からの受験人数を制限する専門学校もあります。

公募制推薦入試でも一般入試でも、必ず学力試験はあります。科目は、小論文・国語総合・英語Ⅰ・英語Ⅱ・数学Ⅰ・数学Aです。学校の授業だけでは学習時間は足りません。家庭学習、専門学校の講習会に参加する、小中学校で通っていた学習塾で勉強するなど学習時間を確保し知識を蓄積するよう指導しています。